

## 18. 高圧酸素療法が有効であった肝不全症例について

沖浜裕司 恩田昌彦 山下精彦  
 森山雄吉 田尻 孝 滝沢隆雄  
 金 徳 栄 中島米治郎 鄭 淳  
 松倉則夫 山田和人 京野昭二  
 松田 健 松田範子 梅原松臣  
 吉田 寛

(日本医科大学第一外科)

合併症を有する高度肝硬変症例ではその治療において、肝障害が急激に増悪し治療に難渋することがあり、さらに肝不全に陥るとその予後はきわめて不良である。

私どもは肝硬変に合併した食道静脈瘤、原発性肝細胞癌および大量消化管出血の各症例にたいし、その治療中、肝不全への移行が危惧された為、高圧酸素療法 (OHP) を施行し、極めて有効であったので報告する。

【症例 1】55歳、男性。高度の肝硬変症に合併した食道静脈瘤症例で、選択的食道静脈瘤塞栓術 (PTO・TIO) および脾動脈塞栓術 (SAE) を施行した。術後、血清ビリルビン値が上昇し、各種治療にもかかわらず黄疸が増悪し、肝不全へ移行したため、高圧酸素療法を合計18回施行し軽快した。

【症例 2】61歳、男性。肝硬変合併肝癌で肝亜区域切除術を施行した。術後、急激に血清ビリルビン値が上昇し全身状態も悪化し肝不全への移行が危惧されたため高圧酸素療法を施行し、肝不全を予防しえた。

【症例 3】62歳、男性。大量の吐・下血を主訴とした肝硬変症で、高アンモニア血症と意識障害があり、高圧酸素療法を施行した。施行後、意識レベルの改善と全身状態の改善を認めたが、多臓器不全を併発し死亡した。

いずれの症例においても高圧酸素療法開始直後より血清ビリルビン値、アンモニア値が急速に低下し、全身状態および意識レベルが著明に改善した。このように肝不全の病態と相関するとされている血清ビリルビン値およびアンモニア値が高圧酸素療法により改善されており、肝不全の治療に有効であると考えられた。

## 19. 下肢の急性動脈閉塞と高気圧酸素療法—とくに阻血肢における PtcO<sub>2</sub> 値の変動について—

八木博司 荒木貞夫 笠井道生  
 江上 純 大島光子 矢野貴久  
 河津好宏 西泊克彦

(福岡八木厚生会病院外科)

下肢の急性動脈閉塞には Fogarty の balloon catheter による血栓除去術がルーチンの術式として広く行われているが、私共は阻血肢の酸素不足を少しでも補足する意味で、術前後に高気圧酸素 (HBO) 療法を行っている。

今回私共は日本光電製の経皮的酸素分圧 (PtcO<sub>2</sub>) 測定装置 (OKV-7101 型) を用いて、HBO 環境下で阻血肢下腿内側の PtcO<sub>2</sub> を持続的に測定し、PtcO<sub>2</sub> 曲線を作って阻血肢の回復状況を追跡したので報告する。

HBO 療法の条件は 2.5ATA, 90分, 1日1回で、ハドソン型マスクを用い、30 l/min の酸素を与えた。

### 【成績】

1. 急性動脈閉塞肢の PtcO<sub>2</sub> は手術前 HBO 環境下にしても、なんら反応を示さなかったのに対し、術後は HBO に反応を示し PtcO<sub>2</sub> 値の上昇を認めた。
2. 術後 PtcO<sub>2</sub> 曲線は日々に回復する傾向を示し、PtcO<sub>2</sub> 曲線が正常化するまで数日を要する事が判った。
3. PtcO<sub>2</sub> 曲線の正常化を左右する因子には手術までの時間と、末梢の run off が関与するように思われた。
4. このような知見から、私共は HBO 療法を手術直前、及び術後数日間施行する事になっている。
5. 自験20症例を検討して、HBO ⊕の方が HBO ⊖より進行例において limb salvage は高いように思われた。